

平成 17 年度大台ヶ原利用対策調査について

I 調査の目的

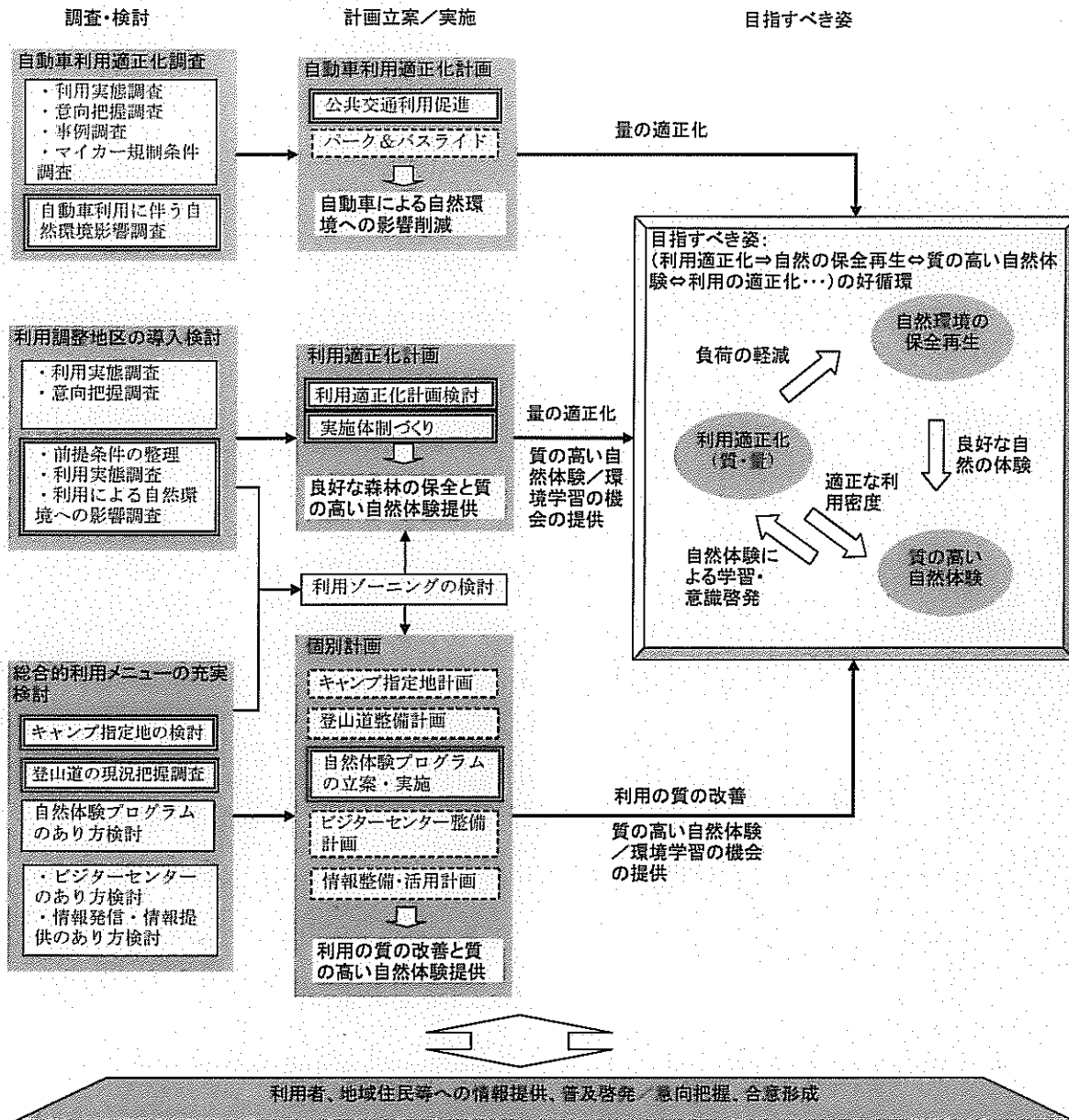
1. これまでの経緯と平成 17 年度の調査の目的

「大台ヶ原自然再生推進計画」における利用対策関連では、自然環境への負荷を軽減するため、自動車利用適正化、利用調整地区の導入、総合的利用メニューの充実によって、自然環境の保全と質の高い自然体験の両立を目指すことを目標としている。

平成 17 年調査では、上記の目標を実現するため、公共交通利用促進の検討、自動車利用に伴う自然環境影響調査、利用調整地区の導入検討、総合的な利用メニューの充実検討を行うとともに、自然再生の取り組みに係る普及啓発を行うことを目的とする。

2. 調査項目

1. 公共交通利用促進の検討
 - 1-1 公共交通利用促進のための広報
 - 1-2 混雑緩和のための緊急対策の検討
 - 1-3 公共交通利用促進事業の効果に関する調査
2. 自動車利用に伴う自然環境影響調査
 - 2-1 自動車排気ガス調査
 - 2-2 自動車利用に伴う自然環境への負荷調査
3. 利用調整地区の導入検討
 - 3-1 現況把握調査
 - 3-2 利用適正化計画の検討・立案調査
4. 総合的な利用メニューの充実検討
 - 4-1 キャンプ指定地についての検討
 - 4-2 登山道の現況把握調査
 - 4-3 自然体験プログラムの立案および実施
5. 普及啓発
 - 5-1 大台ヶ原ビジターセンター展示内容の充実及び解説標識の整理
 - 5-2 大台ヶ原と世界遺産大峯奥駈道の利用を考えるシンポジウムの開催
 - 5-3 ホームページ情報の充実と利用者参加型企画立案・実施



- 凡例
- 過年度調査
 - 平成17年度調査
 - 次年度以降調査

これまでの調査項目と平成17年度調査の流れ

II 調査計画（案）

1. 公共交通利用促進の検討

1-1 公共交通利用促進のための広報

（1）目的

自家用車による利用が集中するピーク期直前に、公共交通利用推進キャンペーンを行い、公共交通での来訪を呼びかける。

（2）実施項目

項目	期間	場所
①中吊り広告 (B3)	近鉄電車内 9/15(木)～9/19(祝) 9/28(水)～10/2(日) 奈良交通バス車内 9月中旬～11月中旬	近鉄電車内 (大阪、南大阪、奈良エリア) 奈良交通バス車内 (可能な範囲で)
②ポスター掲示 (B2)	9月中旬～11月中旬	近鉄主要駅 奈良交通営業所 ビジターセンター 大台ヶ原周辺施設
③チラシ配布 (A4両面)	9月初旬～11月中旬	近鉄主要駅 奈良交通営業所 ビジターセンター 大台ヶ原周辺施設
④HP掲載	8月初旬～	—
⑤シンポジウム開催	9月24日(土)	橿原文化会館

（3）連携・調整先

国土交通省近畿運輸局、林野庁近畿中国森林管理局、奈良県、上北山村、川上村、近畿日本鉄道(株)、奈良交通(株)等

1-2 混雑緩和のための緊急対策の検討

(1) 目的

ピーク時の緊急対策として、ホームページ等を通じた交通情報の提供、路肩駐車防止対策を実施し、ピーク時以外への利用分散、混雑の緩和を図る。

(2) 実施項目

①交通情報の提供

大台ヶ原自然再生ホームページ、携帯電話、電光掲示板等によって、混雑日等の予報、およびリアルタイムの混雑状況に関する情報提供を行い、利用者の分散を促す。

- ・混雑予報（シーズン中の混雑予想日を公開し平日の来訪を呼びかけ）
- ・リアルタイム混雑状況（秋のピーク時3日間に山頂駐車場周辺の混雑状況を発信）

②ドライブウェイ入口での交通情報提供、路肩駐車防止措置（調整中）

- ・ピーク時にドライブウェイ入口付近に人を配置し、山上付近の交通情報を提供する。
- ・車両進入禁止杭の設置など、交通渋滞を招く路肩駐車防止措置を検討する。

③インセンティブの付与

- ・環境省主催による自然観察会の時間設定を公共交通利用に配慮するとともに、公共交通利用者は参加費を無料とする。
- ・公共交通利用者に散策マップを配布するとともに、自然観察会の案内を実施する。
- ・10月に実施する自然体験プログラムへの参加条件を公共交通によるアクセスとする。

(3) 連携・調整先

川上村、上北山村、奈良県、警察、近畿日本鉄道（株）、奈良交通（株）等

(4) その他・留意事項

HPにおいて閑散期の大台の魅力伝える内容を盛り込みなど、閑散期の利用促進を図る。

1-3 公共交通利用促進事業の効果に関する調査

(1) 目的

公共交通利用促進事業の実施期間中に、大台ヶ原利用者に対する意識調査を実施し、広報等の事業による利用者の意識や行動の変化を把握することにより、同事業の効果について検証を行う。

また、同期間の大台ヶ原における交通量や混雑状況等について調査し、交通実態の面から同事業の効果を検討する。交通量等のデータは、後述の自動車排気ガス調査の結果と合わせて、シミュレーションを行う際にも活用する。

(2) 調査の方法

1) 利用者意識調査

①調査日時

10月のピーク時でも最大の集中が見込まれる10/8(土)・9(日)・10(祝)。

雨天の場合は、15(土)・16(日)または22(土)・23(日)に振り替える。

②調査方法

アンケートによって利用者の意識調査を行い、広報キャンペーンの認知状況や、広報による交通手段の変更の有無、利用者の意識や行動への影響等を把握し、広報等の効果を検証する。調査は対面アンケート方式で行い、次表のような項目に関して聞き取りを行う。

ピーク時の1日の来訪者数を約4,000人と仮定し、その3%の抽出を目標として、3日間で360人分のアンケート回収を目標とする

公共交通利用者、マイカー利用者それぞれへの広報等の効果を測ることを考慮し、対象者の抽出に当たっては、バス利用者(観光バス含む)、マイカー利用者(タクシー含む)が同数程度となるよう配慮する。

[アンケート項目]

アンケート項目		内容
利用者属性		・年齢、性別 ・居住地
交通手段等		・利用した交通手段 ・グループ構成
公共交通利用促進のための広報等の効果	広報展開の効果	・広報手段別認知状況(ポスター、中吊り、チラシ、HP、その他) ・交通手段の選択に、広報キャンペーンの影響 ・次回来訪時の交通手段に関する意向
	割引セット券の効果	・割引セット券の認知状況 ・セット券利用の有無 ・セット券に対する評価および希望
	環境保護意識等の向上に関する効果	・広報キャンペーンによる意識や行動の変化
交通情報等の提供による効果	交通情報等の提供による効果	・HP、携帯電話の混雑情報へのアクセスの有無 ・情報提供による時間帯変更などの有無 ・混雑情報提供の有用性
	交通混雑状況に関する感想	・アクセス道路および駐車場における混雑感の有無、程度
公共交通利用に際しての希望事項		・公共交通(路線バス)利用に際しての希望等(料金、サービス、本数等)

2) 交通実態調査

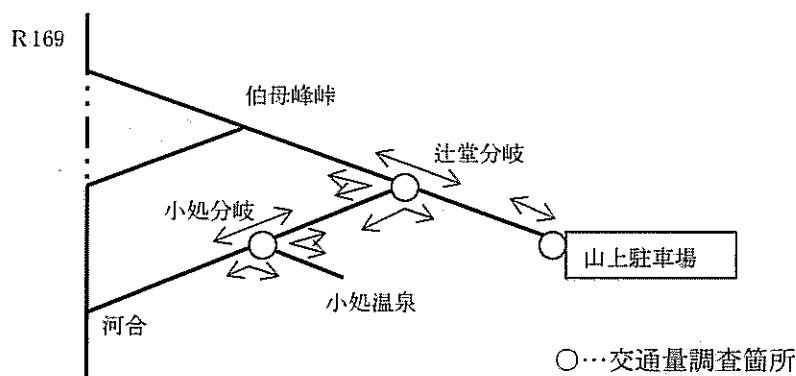
①調査日時

利用者意識調査と同日に実施。調査時間は、午前8時～午後5時とする。

②調査項目および方法

i) 交通量調査

下図のように、山上駐車場出入口、辻堂分岐、小処分岐の3箇所における通過交通量を調査し、山上駐車場および小処温泉方面への入り込み車両台数を把握する。



上記3箇所調査員を配置し、車両の通過時刻、車種、進行方向を記録する。

ii) ドライブウェイの路肩駐車および渋滞状況調査

山上駐車場付近における1時間ごとの路肩駐車箇所と台数、渋滞長、渋滞台数について調査し、渋滞の原因となる路肩駐車の実態と、アイドリングによる大気質への影響が懸念される渋滞の発生状況について把握する。

山上駐車場～2km地点を、2区間に区切り、各区間に調査員を配置する。1時間ごとに調査員が担当区間を踏査し、車種（乗用車・バス）ごとの路肩駐車箇所と台数を記録する。

同時に、担当区間における時間ごとの渋滞の基点と終点、車種ごとの渋滞台数をカウントし、記録する。

iii) 駐車場内アイドリング状況調査

山上駐車場における30分ごとのアイドリング車両台数を調査し、大気質に影響を及ぼすと考えられるアイドリングの状況について把握する。

2. 自動車利用に伴う自然環境影響調査

2-1 自動車排気ガス調査

(1) 目的

大台ヶ原ドライブウェイにおけるピーク時ならびに閑散時の自動車排気ガスを定量的に把握すると共に、得られた結果をシミュレーションすることによって、自動車利用適正化の効果を予測する。

(2) 調査の方法

①調査の実施

大台ヶ原への入込客数が多い秋期に休日を含む5日間連続で大気を測定する。

②調査地点

既往の調査から自動車の集中が予想される山上駐車場入口付近に移動測定車(4tトラック)を駐車して自動測定を行なう。

③調査項目および測定方法

- ・ 植生に対する影響を把握するため、NO_x、O_x、HC、SO₂の10分間値を測定
- ・ 風向・風速、温度・湿度の10分間値を測定
- ・ 自動車の入込台数数及びアイドリング状況を把握



大気質・気象現地実測車

(3) 結果の分析

①実測値の整理

測定結果を元に、風向・風速別環境濃度、曜日別(入込車両台数別)濃度等の整理を行う。

②P&Rによる排ガス削減効果の評価

ピーク時の自動車のアイドリング状況を把握し、ピーク日の自動車数及び既存の自動車排ガス原単位から自動車による現状排ガス量を算出し、P&Rを実施した場合の増減を算定する。

2-2 自動車利用に伴う自然環境への負荷調査

(1) 目的

蘚苔類は大台ヶ原の自然環境を特徴づける植物であり、かつ環境変化の影響を受けやすいため、大台ヶ原の自然環境の指標となる蘚苔類に着目して、自然環境への負荷の要因を把握するとともに、大台ヶ原の蘚苔類フローラ調査の第一歩とする。

(2) 調査の方法

①調査地点

土永・中西による調査(*)と比較するため、七ツ池、開拓、逆川の3箇所を想定する。

②調査対象

胸高直径30cm以上の立木について樹上性の蘚苔類のフローラ調査を行う。

(3) 結果の分析

①文献調査

冷温帯の蘚苔類における既往の文献を検索し、乾燥化の影響、排気ガスの影響の予測を受けやすい蘚苔類の選別を行う。

②フローラ調査結果の整理

土永・中西による調査との比較を行い、大台ヶ原における蘚苔類の特徴および両調査間約20年間の変化の方向と要因を推察する。

③定量的把握方法の検討

本調査の結果を受けて、自動車利用に伴う自然環境への負荷の程度を定量的に把握するための分析手法についての検討を行う。

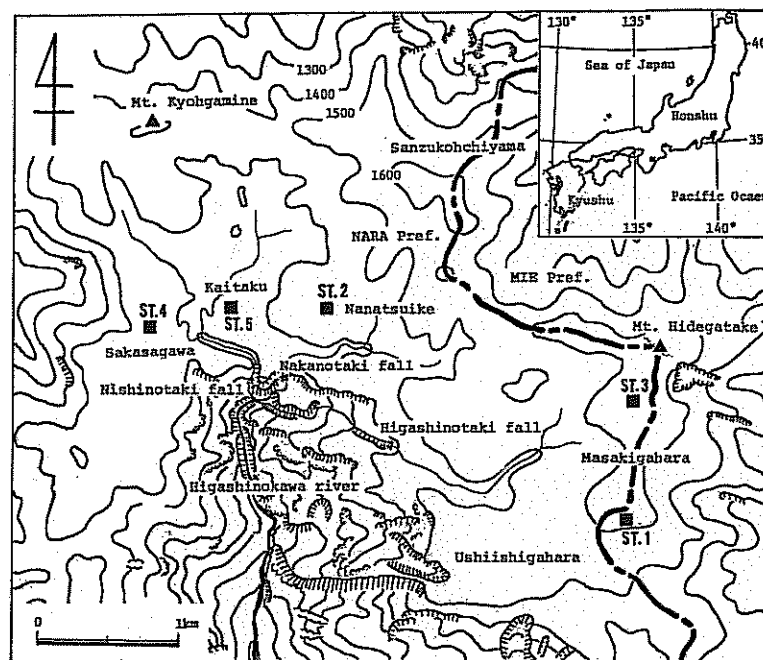


Fig. 1. Map showing location of the station in Mt. Ohdaigahara.

Table 1. Topography and terrestrial communities of the stands selected for epiphytic bryophytes investigation

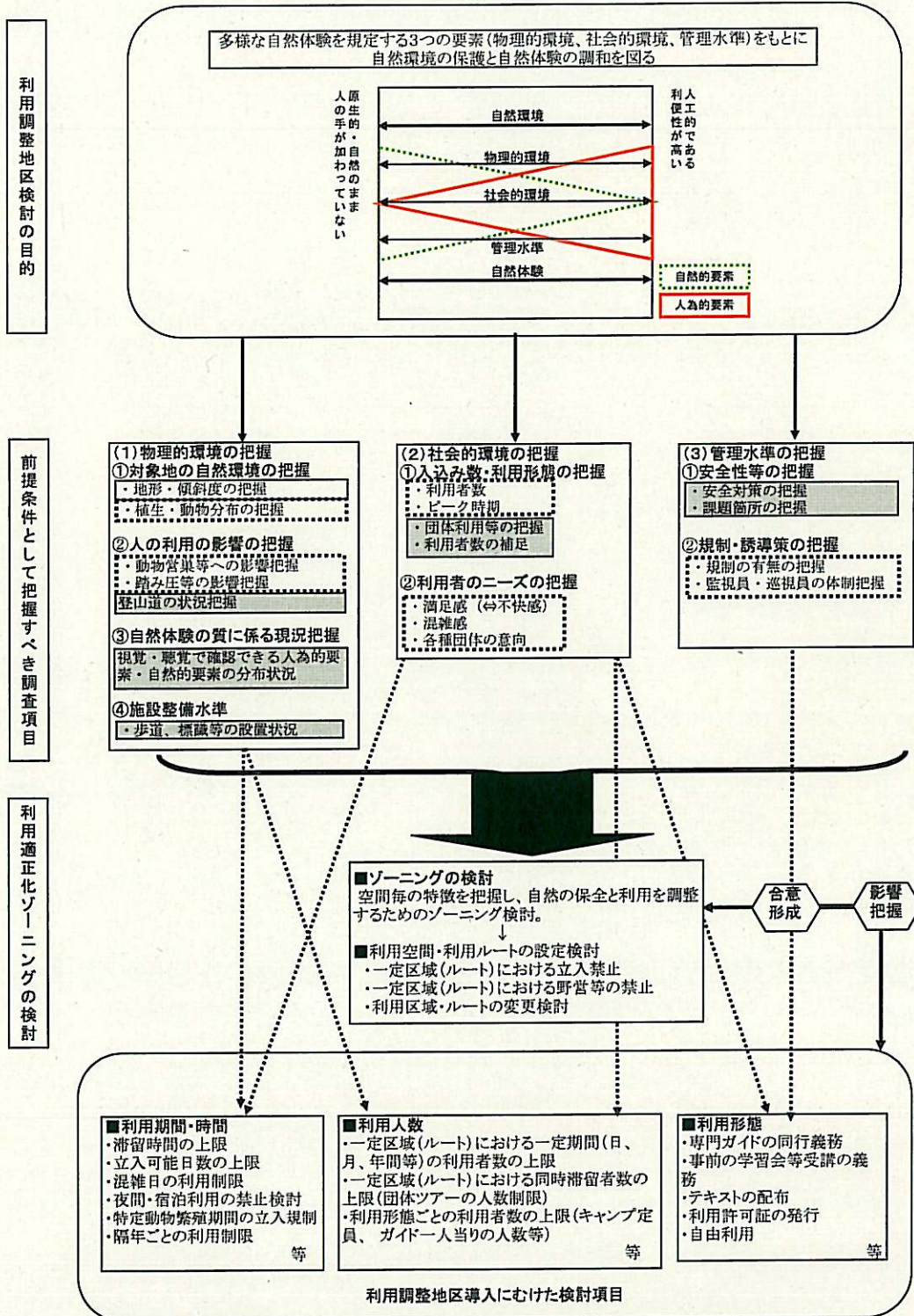
St. no.	Locality	Altitude(m)	Exposition	Inclination	Terrestrial communities
I	Masakigahara	1610	S 40°W	15°	<i>Picea jezoensis</i> var. <i>hondoensis</i> forest
II	Nanatsuike	1490	N 50°E	10°	<i>Fagus crenata</i> - <i>Abies homolepis</i> forest
III	Masakigahara	1680	E 20°N	12°	<i>Picea jezoensis</i> var. <i>hondoensis</i> forest
IV	Sakasagawa	1310	NE	0-20°	<i>Fagus crenata</i> - <i>Sasamorpha borealis</i> forest
V	Kaitaku	1330	N 25°W	12°	<i>Fagus crenata</i> - <i>Chamaecyparis obtusa</i> forest

* 土永浩史・中西哲, 1984, 大台ヶ原山のブナ林・トウヒ林における着生蘚苔類の生態

3. 利用調整地区の導入検討

利用調整地区の検討の目的と検討の流れは下図に示すように想定する。

大台ヶ原における利用調整地区導入検討の目的と流れ



【凡例】

- 本年度調査項目(現地調査)
- 本年度調査項目(既存資料収集・分析)
- ⋯ 過年度調査項目

参考
1: 土屋俊幸(2004)「ROSについて」第4回国有林の「レクリエーションの森」に関する検討会(H16.10.18)資料
2: 八巻一成(1999)「利用者の多様性を考慮した森林レクリエーション計画手法の開発」独立行政法人森林総合研究所 所報No.135

3-1 現況把握調査

(1) 目的

既存の自然環境情報を収集・整理するとともに、利用実態の把握、人の利用影響の把握、自然体験の質に係る現況把握、施設等の整備水準・管理状況の把握を行い、利用適正化計画の検討・立案を図るための基礎資料とする。

(2) 調査の方法

以下の項目について調査を行う。なお、現地調査項目は歩道より目視で確認できる範囲を調査対象として、現況及び課題事項を1/2,500 図面に記録する。

	調査項目	調査の方法
自然環境情報等の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境情報（地形、傾斜度、植生、動物分布等） ・関連情報（法規制、土地所有等） 	既存資料の収集し、図面情報として整理
自然環境への影響の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の複線化、洗掘、裸地化状況の把握 ・周回線歩道以外の利用ルート of 把握 ・特定の種に着目した植生への影響把握 ・野営・トイレ跡、ゴミ不法投棄等の把握 等 	現地調査により位置、規模、現況の特徴等を記録
自然体験の質に係る現況把握	<ul style="list-style-type: none"> ・人為的要素（視覚例：構造物、人工林、聴覚例：自動車の音） ・自然的要素（視覚例：原生林、聴覚例：川のせせらぎ、静けさ） 	視覚および聴覚により確認した項目を記録。
整備水準の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の整備状況（石積み、階段、橋等と管理状況） ・サインの整備状況（設置箇所、種別と管理状況） 	現地調査により位置、現況の特徴等を記録
管理水準の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策箇所（ロープの設置、危険箇所の明示等） ・土砂崩壊等の課題箇所 	同上
入込みの実態把握	・入下山者数（東大台・西大台別、月別、曜日別等）	入下山カウンタデータの整理
	・通過数とカウント記録の差異および要因の確認、対策の検討	入下山カウンタの現地補足調査
	・団体利用者の入込み実態の把握（団体種別、入込み量、季節・曜日等による特徴）	現地記録（毎日2回）、資料収集（広告等）ヒアリング

(3) 結果の分析

自然環境の現況、入込みの実態把握、施設等の整備および管理状況を明らかにし、大台ヶ原の自然再生と質の高い自然体験の提供における現況資源と課題を整理する。

3-2 利用適正化計画の検討・立案調査

(1) 目的

大台ヶ原における利用調整のあり方について関係機関、関係団体および地元住民等との意見交換を図り、利用適正化計画（案）を検討・立案する。

(2) 調査の方法

①計画検討・立案

大台ヶ原の利用ゾーニング・利用の調整を図るべき区域、認定基準、モニタリング項目の検討を行う。

- ・利用ゾーニングの検討（空間毎の物理的環境、社会的環境、管理水準の把握に基づいて検討）
- ・基準の検討（人数、期間、禁止事項、注意事項、施設整備、その他）
- ・モニタリング項目の検討

②認定事務実施体制の検討

認定事務実施体制の確立に向けて以下の検討を行う。

- ・利用調整地区制度の管理運営に係る収支、労力、施設
- ・役割分担の検討

③関係機関等との合意形成

計画について関係機関との意見交換を行い、合意形成をはかる

(3) 課題の把握

利用適正化計画を策定、具体化するための調査課題を明らかにし、今後の調査の進め方を検討する。

4. 総合的な利用メニューの充実検討

4-1 キャンプ指定地についての検討

(1) 目的

大台ヶ原におけるキャンプ指定地の導入可能性について具体的に検討する。

(2) 調査の方法

① キャンプ指定地の詳細検討

キャンプ指定地候補地の現地調査およびヒアリング調査を行い、キャンプ指定に向けた検討を行う。

- ・ビジターセンター等にヒアリング調査を行いながら具体的候補地を選出、現況条件を調査・整理する。
- ・指定のための管理運営システム、利用者の規定等を検討する。

② キャンプ指定地の考え方についての合意形成

大台ヶ原におけるキャンプ指定地の必要性、位置づけ、規模等について合意形成を図り、キャンプ指定の方針を検討する。

(3) 課題の把握

キャンプ指定地計画案を具体化するための調査課題を明らかにし、今後の調査の進め方を検討する。

4-2 登山道の現況把握調査

(1) 目的

登山道の現況および課題を把握し、今後の利用および整備のあり方を検討するための基礎資料とする。あわせて、大台ヶ原における登山利用の魅力を発信するための登山道情報の収集整理を行う。

(2) 調査の方法

① 位置づけ等の整理

既存文献により大台ヶ原周辺の登山道、歩道の位置づけ等を整理する。

② 現況調査

現地調査により周辺植生および景観現況、資源・みどころ、歩道・サイン整備状況、利用による影響箇所、課題箇所などを把握する。

調査対象は大台ヶ原周回線歩道（西大台）のほか、木和田大台ヶ原線歩道、筏場大台ヶ原線歩道（、大杉谷線）とする。

③ 登山道のあり方の検討および課題の把握

上記の調査により明らかになった個別ルートごとの現況と課題を整理するとともに、今後の整備の方向性、利用者誘導のあり方等について明らかにする。

4-3 自然体験プログラムの立案および実施

(1) 目的

大台ヶ原における自然の保全再生と質の高い自然体験を図るための自然体験プログラムのあり方について明らかにするとともに、同検討に基づく自然体験プログラムを立案、実施し、今後の継続的なプログラム実施に向けた課題を明らかにする。

(2) 自然体験プログラムの立案検討

①プログラムの立案・検討

上記で検討した自然体験プログラムのあり方を踏まえ、実証的に実施する自然体験プログラムを立案する。

想定されるプログラム

- ・閑散期の魅力を発信し、より質の高い自然体験を提供するプログラム
- ・大台ヶ原の自然環境の現状と自然再生の取り組みへの理解を深めるプログラム
- ・地域振興への寄与、平準化効果が期待されるプログラム

②実施体制の確立

近畿地区自然保護事務所および関係者との協議により、ガイドの確保・育成、広報・募集方法、協力関係機関との連携体制等の実施体制を確立する。

(3) 自然体験プログラム及び人材育成プログラムの実施

①アクティブレジャーによる自然観察会

目的：利用の少ない平日に、気軽に参加できる自然体験プログラムを開催し、自然への理解を深め、利用マナーの向上を図るため自然体験のきっかけづくりを提供するとともに、閑散期の大台ヶ原の魅力を発信する。また、公共交通利用促進に寄与できるよう公共交通利用者への配慮を行う。

日時：8月中旬～10月末の毎週水曜日（9月21日を除く）

午前：11時～、午後：14時～ 1時間程度

定員：各回10人程度

内容：スライドによる自然解説と野外での自然体験をあわせたショートプログラム

対象：一般（公共交通利用者は無料）

募集：当日参加若しくは事前申込。バス発着時間に配慮。

②人材育成プログラムの実施計画

目的：秋のピーク前の9月の平日（9月21日を予定）に地域住民やボランティア、バスツアーのガイド等を対象としたガイド育成プログラムを実施し、ガイド人材の確保と自然解説技術の向上を図る。

日時：9月21日（水）10：00～16：15

定員：30人程度

対象：パークボランティア、地域住民、自然観察ガイド担当者・希望者、バスツアーガイド、アクティブレジャー、ビジターセンターコーディネーター

募集：パークボランティア、上北山村、川上村、宮川村関係課および関係各機関（森林組合、NPO 森と人のネットワーク奈良、林野庁関係部局）への文書による通知
バスツアーガイドについては、三重および奈良県観光協会およびツアー企画企業等への文書による案内

*地域住民に対して地元ケーブルテレビ等により案内できないか今後相談。

費用：無料（大台ヶ原までの公共交通費用は参加者負担）

スケジュール：

	内容	講師
10：00～11：45	自然体験活動の理念及び指導法について 受講（105分）	大杉谷自然学校 大西かおり校長 NPO 森と人のネットワーク 奈良 岩本泉治理事
12：30～13：15	大台ヶ原の森林生態系についての受講（45分）	奈良教育大学 松井淳教授
13：30～15：30	自然解説の実地学習（120分） ※アクティブレジャーがガイドした内容を講師が助言	松井教授、大西校長、岩本理事
15：45～16：15	受講についての感想等まとめ（30分）	
16：15	（終了・解散）	

③自然体験プログラムの実施計画

名 称：「千石正一先生と歩く大台ヶ原」

趣 旨：大台ヶ原の自然環境を保全・再生を進めるために、知られざる大台ヶ原の魅力や楽しみ方を参加者に伝えると共に、自然再生の取組みの一環である公共交通利用を呼びかけることを目的とする。

テーマ：美しい大台ヶ原をいつまでも

日 時：10月9日（日）、10日（月）

定 員：自然観察会：30人（路線バス定員を勘案）

ナイトレクチャー：30人程度（ビジターセンターレクチャーホール収容人数を勘案）

対 象：公共交通利用の小学校高学年以上

募 集：大台ヶ原HP、公共交通利用促進中吊広告・ポスター及びマスコミ投げ込み

3つのプログラム（自然観察会2回、ナイトレクチャー1回）毎に区分して募集

*定員のうち5～6名は地元小中学校生の参加枠を想定

費 用：無料（大台ヶ原までの公共交通費用は参加者負担）

スケジュール：

10月		内容	講師
9（日）	12：00～12：30	大台ヶ原の自然のポイントについて説明	千石先生（自然環境研究センター研究主幹）、伊藤ふくお氏、自然環境研究センター研究者
	12：30～15：30	自然観察会 （アンケート記入後に解散）	
	19：30～21：00	ナイトレクチャー （アンケート記入後に解散）	
10（月）	11：00～13：00	自然観察会（アンケート記入後に解散）	

（4）効果の検証および課題の把握

参加者アンケートを行い、自然体験の満足度や要望等を把握するとともに、今後継続的に自然体験プログラムを実施するための課題、体制づくりについて明らかにする

5. 普及啓発

5-1 大台ヶ原ビジターセンター展示内容の充実及び解説標識の整理

(1) 目的

平成17年1月に策定された「大台ヶ原自然再生推進計画」に基づき、今後長期間にわたる自然再生の取り組みを様々な主体の参画のもと進めるにあたり、自然再生関連調査で得られた成果を活用するとともに、大台ヶ原の主要利用拠点において取組内容等を紹介し、利用者への普及啓発を図る。

(2) 内容

- ① 既往調査成果を活用した普及啓発
- ② 大台ヶ原ビジターセンターの展示物の充実
- ③ 大台ヶ原周回線歩道の解説標識の検討

(3) 進め方

学識経験者、関係者等による「VC展示・解説検討委員会（仮称）」を開催し（2回程度）、改修内容及び展示・解説方法等について検討する。

5-2 大台ヶ原と世界遺産大峯奥駈道の利用を考えるシンポジウムの開催

(1) 目的

大台ヶ原の自然再生に向けた公共交通の利用促進等新しい利用のあり方を考える上では、大台ヶ原地区のみならず広域的な利用動態を踏まえて考えていくことが必要であることから、公共交通と登山道の広域的なネットワークを考え、大台ヶ原と大峯奥駈道における公共交通利用と賢明な利用の促進、あわせて吉野地域の活性化を図るための意見交換、普及啓発を行う。

(2) 内容

実施主体

主催：環境省近畿地区自然保護事務所

後援（予定）：国土交通省近畿運輸局・林野庁近畿中国森林管理局・奈良県・上北山村・川上村・天川村等

協力：NPO 森と人のネットワーク奈良

日時

平成17年9月24日（土） 12時30分～15時30分

場所

奈良県橿原文化会館

対象

登山利用者・自然保護団体・公共交通機関・関係機関等（参加費無料）

5-3 ホームページ情報の充実と利用者参加型企画立案・実施

(1) 目的

インターネットの大台ヶ原自然再生ホームページ(<http://www.odaigahara.net/> 以下大台 HP) を活用し、大台ヶ原の自然再生についての普及啓発を行う。

(2) 実施項目

①システムの再検討

- ・大台ヶ原の自然再生に関する統合ポータルサイトとしての役割を担うものとするべく、システムの再構築を含めた基盤の整備を行う。
- ・制作主体、Web 管理主体等の各役割担当を明確にして、円滑な管理運営を行う。
- ・利用者のニーズに応じた情報の充実や分かりやすさをアピールするためのコンテンツの再整理を行う。

②運営

i) 自然再生事業に係わる各種情報の提供

- ・大台ヶ原 HP での各種委員会報告等の不定期情報の公開、提供を行う。

ii) 他の調査計画と連動した普及啓発の推進

- ・公共交通利用促進、総合的な利用メーの実施など広報・告知が重要となる案件と連動し、その情報を掲載して広く普及啓発を行う。

③利用者参加型企画立案・実施

i) 大台ヶ原通信（メールマガジン）の発行

◇メールマガジン名称：『大台ヶ原通信』

◇記事内容

下記に示す関係機関より収集した各種情報を元に記事を構成する。記事内での紹介は概要にとどめ、詳細は大台ヶ原自然再生ホームページや環境省 HP、村 HP へのリンクを掲示する。

○大台ヶ原を訪れ、楽しむための情報提供

- ・大台ヶ原の近況（季節のみどころ、開花情報）
- ・イベント情報（自然観察会、地元イベント等）
- ・交通規制情報、登山道情報 等

○大台ヶ原の自然再生、利用に向けた取組みの紹介

- ・自然再生事業に係わる情報（委員会の開催、登山道整備 等）
- ・調査、実験実施の案内（公共交通利用促進事業） 等

◇登録募集

8月12日より募集開始。大台ヶ原自然再生ホームページ内に募集ページを開設

◇メールマガジンの配信

観光シーズンにあわせ配信を行う。本年度は夏、秋の2回。その他必要に応じ臨時号の配信。バックナンバーは、配信後1~2週間後に大台ヶ原自然再生ホームページに掲示

ii) 大台ヶ原写真コンテストの実施

大台ヶ原の自然の魅力発信・写真撮影マナーの啓発等を含めた利用意識向上の契機として、大台ヶ原写真コンテストを開催する。

◇実施体制

主催：環境省自然環境局近畿地区自然保護事務所

協賛：富士フイルムイメージテック株式会社

後援（予定）：川上村、上北山村（募集チラシ配布協力、告知協力）等

◇コンテスト名

『私が見つけた大台ヶ原の自然 写真コンテスト』

コンセプト：大台ヶ原の現状を写した作品だけでなく、過去の大台ヶ原の様子や閑散期の風景など、応募者それぞれが想いを持つ作品を広く募集する

◇募集要項

『テーマ』 私が見つけた大台ヶ原の自然

『応募資格』 なし（プロ・アマ問わず）

『応募規定』 ◆大台ヶ原にて撮影された自作未発表の写真（撮影年代、時期は問いません）

◆歩道を踏み外れて撮影された写真は受理されません。

大台ヶ原は国立公園の特別保護地区に指定され、植物の損傷等が法律により規制されています。

◆応募点数に制限はありません

◆単写真（組写真、合成・加工写真は不可）

◆四切プリントで受付。デジカメ撮影作品可（A4もしくはA4ワイドサイズプリント）

◆撮影場所は大台ヶ原に限る。但し、立入禁止区域での撮影と認められた写真は失格

◆入選作品の著作権は主催者に帰属し、作品のフィルム又はデータを提出して頂きます

※主催・後援団体のホームページや出版物等へ無償で使用させていただきますので予めご了承下さい

◆応募された作品は原則として返却いたしません

『応募方法』 作品ごとに、必要事項を記入した応募票を作品の裏側に貼付の上提出（郵送又は持込）

必要事項：題名、撮影場所、撮影年月日、氏名、性別、年齢、住所、電話番号、原版的種別

◇告知・募集

- 募集期間：平成17年9月中旬～12月20日
- 応募用紙付き募集チラシの作成、配布
配布場所：大台ヶ原ビジターセンター、近畿地区自然保護事務所、富士フォトギャラリー大阪、富士フォトサロン大阪、川上村各機関、上北山村各機関 等
- 大台ヶ原自然再生ホームページに情報を掲示。応募用紙（PDF）のダウンロード
- 新聞への記事掲載
- 公共交通利用促進ポスター・中吊り広告への掲載
- 専門誌（月刊フォトコンテスト）での告知
- （地元ケーブルテレビにより周知できないか今後相談）

◇審査委員

津田洋甫先生（写真家）

◇発表

入選者に各自通知。大台ヶ原自然再生ホームページにて公表。

◇表彰・展示

- 吉野熊野国立公園開園70周年（H18.2）にあわせて表彰式及び作品展示を実施
- 日時：平成18年2月中旬（2週間）
- 会場：富士フォトギャラリー大阪（大阪市北区）

◇作品の活用

- 入選作品はビジターセンターにてパネル展示
- 大台ヶ原自然再生ホームページにサムネイル写真掲載
- 主催者及び後援団体による作品の二次利用

（3）効果の検証および課題の把握

普及啓発の効果検証として以下の項目を実施、または検討する。

- HPの利用状況から、利用者のニーズ等を把握する。
- 大台ヶ原通信の利用状況を把握する。さらに今後の管理運営における課題の整理を行う。

Ⅲ 調査スケジュール案

調査スケジュールは以下の流れを想定して進める。

	6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1 公共交通利用促進の検討				準備・関係者協議等						広報展開			交通量調査			効果分析														
2 自動車利用に伴う自然環境影響調査																														
2-1 自動車排気ガス調査				現地予備調査									測定			分析・シミュレーション														
2-2 自動車利用に伴う自然環境への負荷調査				現地予備調査						現地調査						分析														
3 利用調整地区の導入検討																														
3-1 現況把握調査				現地および既存文献調査による補足調査																										
3-2 利用適正化計画の検討・立案調査				条件整理、環境調査						協議会設置			計画の検討・立案																	
4 総合的な利用メニューの充実検討																														
4-1 キャンプ指定地についての検討				考え方整理			現地条件調査、ヒアリング補足調査						分析・とりまとめ																	
4-2 登山道の現況把握調査							現地調査						分析・とりまとめ																	
4-3 自然体験プログラムの立案および実施				立案・実施体制確立			ガイド研修			プログラム実施			効果分析																	
5 普及啓発							パネル展開催			メールマガジン発行、写真コンテスト実施			HP充実			ビジターセンター等の充実														

* 網掛けは一般利用者等に対して実施する取り組み
 * なお、必要に応じてワーキンググループを開催する。